



魅力だより



3学期も終わりを迎えようとしていますが、学校の様子はいかがですか。

今回は、生徒指導提要进行を踏まえた発達支持的生徒指導による「魅力ある学校づくり」への高等学校の取組状況を中心にお知らせします。

ぜひ、来年度の取組の参考にさせていただけるとありがたいです。

「居場所と絆プロジェクト」(県立高校において、不登校の未然防止として取組を進めている。)

居場所づくり…安心して登校できる。

絆づくり…主体的な活動を通して

教職員が、

生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所を提供する。

教職員主導で【安心安全な学校づくり】



生徒が、

主体的に取り組む活動を通し、自らが「絆」を感じ取り、紡いでいく。

教職員は【場と機会の設定】

生徒、教職員にとって「魅力ある」学校



「学力向上」、「業務改善」にもつながる
生徒・教職員などみんなが「行きたくなる」学校づくりを目指します

全教職員の共通実践 定期的な確認

不登校の未然防止の取組につながる！！

学習活動の工夫

教職員の意識改革

行事や活動の充実

相談体制の整備

生徒間交流の促進

孤独感・不安感の軽減

現在の学校生活について、あなたはどのように感じていますか。
当てはまるものを1から4の中から選び、その番号に○をつけてください。

【国立教育政策研究所の「意識調査」で調査分析】

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない
ア 学校が楽しい	1	2	3	4
イ みんなで何かをするのは楽しい	1	2	3	4
ウ 授業に主体的に取り組んでいる	1	2	3	4
エ 授業がよくわかる	1	2	3	4

- 1回目の結果と学年の実態から、「魅力ある学校づくり」で最も向上させたい質問項目(ア～エ)を1つ選択する。
- その項目が2回目の結果で向上するための取組(具体策)を策定する。

令和7年度「居場所と絆プロジェクト」について、説明を行った学校

令和7年度は、11校の高校を訪問し、プロジェクトの説明を行いました！

令和7年度「居場所と絆プロジェクト」実施校

令和7年度は、6校が本プロジェクトを実施しています。

各学校におかれましては、引き続き発達支持的生徒指導に取り組んでいただきますよう宜しくお願い致します。



「居場所と絆プロジェクト」取組事例♪

- ・ 日々の生徒への挨拶，声かけ，励ましを意識し，人間関係構築へ。
- ・ 生徒，職員でレクリエーションを実施。計画立案は，生徒！
- ・ 毎授業終了間際に，授業の目標は何だったか，習得（理解）できたかを確認する。（振り返りの実践）
- ・ 職員間で「学校に足りないもの」についてフリートークを実施。
- ・ 職員間で何でも言い合える場の設定，「〇〇」と命名し，意識 up。
- ・ 決議機関ではなく，「語り合う場」の設定。



職員間で情報を共有

- 生徒同士や教職員とのつながりが深まった。
- クラスを超えて学年間での絆が強化された。
- 生徒・教職員で「学校が楽しい」に注目し，取組を進めた。
- 教職員間連携が強化され，校務がスムーズになった。



本プロジェクト参加A校の不登校生徒数

(継続数・新規数) ■ 継続数



新規不登校生徒数の減少が見られました。

【成果】

R4 から継続的に本プロジェクトに取り組んだA高校，「地域とともにある学校づくり」を推進し，協議会メンバーに生徒も含め，生徒・教職員・地域で一体となり，学校の魅力化へ取り組んだ。

「業務が多く，新たな事業を取り入れることが難しい。」

「どんなことを取り組めばいいか，わからない。」

「職員の理解を得るのが難しい。」

「時間に余裕がない。」と思っている学校は，いつでも御相談下さい！

新しい取組ではなく，「今」
できることに注目します！



○ 職員研修等で当プロジェクトの説明を行います！

○ 御不明な点について，いつでも御相談ください！



魅力ある学校づくりへの取組も年々，浸透してきています。「意識調査」を実施することで子供たちの声を聴き，「意識調査」を分析することで先生たちが具体策を話し合い，教育活動の改善や見直しに繋がってください。

各学校では，取組を進める中で，不明なことや疑問に思うことが出てくることと思います。ちょっとしたことでも，どうぞお気軽にお尋ねください。(市町村教育委員会，各学校からでも大丈夫です。)

【連絡先】 高校教育課学校教育生徒指導班 (小中学校担当：田中・福元 高校担当：實方)

TEL 099-286-5532

Email seitosidou@pref.kagoshima.lg.jp

